

昭和五十二年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議録第三号

館山市議 会

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
議案第七十号	二
議案第七十一号	二
発言の取り消し	一〇
議案第七十二号	一〇
議案第七十三号	三三
日程の追加・議案第七十四号	三六
日程の追加・議案第七十五号	三六
閉会	三七
本日の会議に付した事件	三七

一、昭和五十二年十二月二十七日（火曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一番	吉田 勇治郎	二番	伊藤 幸太郎
三番	矢野 寿夫	四番	押元 稔
五番	黒川 平治	六番	鈴木 正義
七番	本間 昭二	八番	松下 正己
九番	鈴木 稔	一〇番	流山 源次郎
一番	近藤 好雄	二番	栗原 一雄
三番	林 豊	四番	石井 輝久
五番	辻田 実	六番	安西 益男
七番	石井 武敏	八番	渡辺 軍治郎
九番	和田 一郎	二番	五十嵐 昇
二番	菊井 敏博	二番	西村 真次
二番	伊賀 多朗	二番	藤田 益治
二番	遠山 ヨネ子	二番	石井 正
三番	山口 康		
一、欠席議員 三名			
九番	渡辺 昭夫	二番	田中 禄郎
二九番	望月 照正		

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十二年十二月二十七日午前十時開議

日程第一 議案第七十号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二 議案第七十一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三 議案第七十二号 昭和五十二年度館山市一般会計補正予算(第二号)

日程第四 議案第七十三号 昭和五十二年度館山市水道事業特別会計補正予算(第二号)

開 議 午前十時五分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十四名、これより第四回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。
この際申し上げます。本日の議事案件の内容説明はすべて終わっておりますので、直ちに質疑より行います。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、議案第七十号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑を願います。御質疑ございませんか。御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

採 決

○議長(吉田勇治郎君) 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、議案第七十一号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑を願います。

○一八番(渡辺軍治郎君) この議案は都市計画税を免除するといふことですが、都市計画税についてお伺いしたいんですが、都市

計画税は目的税であって、条例の百四十四条の第一項中の都市計画区域という、これは市街化区域とか市街化調整区域とかそういうようなことで、その開発とかというようにすることに對して固定資産税を課するという事になってゐるんですが、館山市が都市計画法に基づいて都市計画をつくって、内容とすればどういふ事務といふ事か、事業といふ事か、そういうものをやるために目的税として税をかけたと思うんですが、その内容についてお伺いしたいと思ふんです。

〇 税務課長（齊藤武男君） お答え申し上げます。

都市計画税はお説のように目的税でございますけれども、現在の館山市はこの都市計画法の五条に基づきまして都市計画区域の中でこのものを使ってゐるわけでございますけれども、本来のたてまえから申しますと、いわゆる都市計画調整区域でありますとか、そういうふうなところに使うべきものでございますけれども館山市はそれが設定されておりませんで、結果的には都市計画区域のうちのすべての区域につきましてこれを使わさせていただいてゐるわけでございます。

〇 一八番（渡辺軍治郎君） ただ都市計画区域を決めて、この区域内にある土地や建物を持っている者に対する都市計画税というところでかかつてゐるわけです。目的税とすれば、当然そこでどういふ仕事といふ事か、事業を起して、そのために税を使うといふことが目的税としての本来の目的だと思ふんです。

館山市では市街化区域や調整区域をつくってその中でどういふことに使つてきたのか。そういうことは当然問題にされなければならぬと思ふんですが、たとえば道路舗装とか、そういうよう

なことに都市計画としてやっぱりはっきりとした目的をもってそのために使うということとでなければ、市民に對する説得力を持たないと思ふわけです。そして、その事業の進行状況がどのように進行されているのか、すでに相当都市計画としての本来の目的を達しているとするれば、その税は当然廃止されていいものだと思ふんです。そういうことが経過的にはっきりしないで、ただ漫然と都市計画税をとつてゐるということではわれわれは納得できないわけです。そういう点を一体的目的税がどのように使われて、どういふふうに役立ってきたのか、そういう点をはっきりさせてもらいたいと思ふんです。

〇 税務課長（齊藤武男君） お答え申し上げます。

都市計画税は本来そういうような形でいわゆる用途地域を定めまして使用されるものでございますけれども、都市計画法の五条によりましてところの都市計画区域というようにすることで地方税法にもうたわれてゐるわけでございます。特に当市は財政が非常に困難でございますので、そういうようなことでこの目的税が道路の舗装の關係でありますとか、いわゆる公園でありますとか、そういうような關係に、地区内すべて使用されてゐるような実情でございます。

〇 一八番（渡辺軍治郎君） 目的税がどう使われてきたかということとは非常に重要だと思ふんです。たとえば、ある程度道路の舗装とか公園の整備とか都市計画上のいろいろ計画したものが進行して大体完成に近づくとか、あるいは完成すればこの税は要らなくなる性質のものだと思ふんです。目的税でありますから。その問題がはっきりしないで、納めた税金がどのように使われたのかさ

っぱりわからない、どのようになっていのかかわからないということでは説得力を持たないと思うんです。

ここで出されている農振地域、これは農業の用途地域ですからそういうところは市街化とは関係ないということで、一応免除のあれはあると思うんですが、しかし目的がある程度達せられたとすれば税金も軽減されていく、あるいは完成すればなくなるというようなことでなければいけないと思うんですが、そういうことに對する見解はどうなんですか。

〇市長（半沢良一君） 確かにお説のように目的税であることはそのとおりでありますけれども、館山市の場合は従来からも条例に従いまして徴収をいたしまして、市内全域の都市的な諸施設——道路の整備とか、あるいは公園とか、ただいま税務課長が申し上げましたような都市的な諸施設の充実に使っているわけでございます。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。

〇一五番（辻田 実君） ここでお尋ねしたいことは、農用地区域というのはいく二百九十九万平方メートルという説明があったわけでございますけれども、これは地図、その他はわかりませんので、不勉強で申しわけないんですけども、どういう状況で把握され、どういう地域にあるのかお伺いしたいわけでございます。

私は、この点をお伺いしたいのは、全部の農地に適用されないということ、これは農振法に基づいた農用地ということでございますから、農用地と農用地以外の農地との関係はどのような状況になっておるのか。割合ですね。割合はどのくらいか。そしてこの農用地の設定はどのようにしてされておるか。その点について

まずお伺いしたいわけでございます。

〇税務課長（齊藤武男君） 農振法に基づきまして当市は農用地の設定がしてございます。富崎地区を除きまして各地区それぞれ農用地の設定がしてあるわけでございますが、地区別に申し上げますと、館山地区が四十六万三千四百九十九平方メートル、北条地区が九十五万六千平方メートル、那古船形地区が二百五十八万八千八百七十八平方メートル、西岬地区が四十五万八千三百八十八平方メートル、神戸地区が百七十二万六千五百七十八平方メートル、豊房地区が二百二十五万五千四百八十三平方メートル、館野地区が二百二十二万三千五百八十八平方メートル、九重地区が二百十八万八千九百三十五平方メートル、計千二百三十二万二千二百一十一平方メートルというものが設定されておるわけでございます。

〇一五番（辻田 実君） そこで私は、地域は分かったわけでございますけれども、ここで昨日質問した税の公平との関係において質問を深めたいと思うわけでございます。

一つは、一八番議員との質疑がございましたように、都市計画税というのは目的税であるわけでございます。したがって、都市計画が十分施されていない地域においては、都市計画税を納めてもその還元がないという形で免除されるのではないかと。私は以前の通告質問の中において農村部におきまますところの都市計画税がとられているけれども、しかし都市計画的な事業がなされておらないので、これは非常に問題があるんじゃないかということを質問しまして、今回はこういう形で免除になったわけでございまして、そこで私が聞きたいことは、目的税の性格からいってこの農用地に対しては免除になる根拠というんですか、理由、これは何なのかということをお伺いしたいわけでございます。

もう一つは、農地であっても農用地でないところについては同様課せられていくという理由、なぜかということ、これが第二点目。

それから、もう一点は、都市計画事業というものが行われてない地域というのは、農地その他に關係なく、たとえば豊房とか九重、鎭野、神戸というところは非常に農用地は多いわけでございます。農用地の中に家なんか建って、いろんなものがあるとして、固定資産持っておりますもそれにはかかって、それでその回りの農地そのものは免除になるという、これは不合理性は出てこないか。都市計画というのの一つのその地域そのものを再整備していくことになる、それは地域全体的なものになってくるというふうに思われるわけでございますけれども、そういう理屈は成り立たないかどうかということです。

それから、もう一つ、飛躍しますと、いま言った農用区域内にある住宅とか、そういう倉庫についてはかかるけれども、農地そのものだけ免除されるという、都市計画税の免除ということになってくると、その地域が都市計画ができないがらということになってくれば、その固定資産に目的税を課するというのはおかしいということになるのと同じように、たとえば十年とか、長期にわたってこれといった都市計画事業が行われていない地域があるわけです。たとえば農村部とかそういうところについてそこ自体は何のためにとられているんだという、こういう形が出てくるのではないか、そういう点についての疑義というものはどのように考えたらいいのかお伺いしたいわけでございます。

以上。

○税務課長（斉藤武男君） 都市計画税は最初から申し上げますように目的税でございます。いわゆる農振法によりますところの法律とおのずと性格を異にするわけでございます。農用地、特に当該地域の利益となる都市計画事業、または都市区画整理事業が行われる場合を除き課税区域から除外することが適當であるというようなことが先の国会でも明らかにされまして、それに従いたいというような根拠のもとでするわけでございます。したがって、それ以外の地域については、いわゆる農振法は一つの制約がございまして、十年とかそういうようなことで農業専用のために使う農地だということでございますので、おのずとそこに差異が出てきておるわけでございます。

○一五番（辻田 実君） いま国の法律がそうなったからということとでございますけれども、必ずしも農村地域においては、七〇%とか八〇%農業に依存している地域においては都市計画税というものが課税されていないのが多いように聞いております。というのは都市計画事業というものが無いわけでございますから。鎭山のように都市計画税をとっている地域、その中において、しながら税がとれるからということでもってとっておるわけでございます。そういう中においては、やはり国の一つの法律との矛盾が出ておるわけでございます。したがって、鎭山市が全域にわたって都市計画税を課するということについては、やはり都市計画税を設定した段階からすでに問題が出ておることは御承知のとおりでございます。

私も、十何年前の議会において、都市計画税の税率の一部改正

があったときに、この税金はおかしいじゃないかという質問をしているわけでございます。そのときに農村の問題が出たわけでございませけれども、しかし都市計画に基づいて農村にも学校をつくったり、道路をつくったりするんだからやむを得ない、財政事情が変わればこれらの目的税は解消してもいいんだから、いま財源のない中でもってそういう事業を達成するまでの間ということで、永久的ではないんだということを市当局は答弁されて、そういう中でこれはあくまでも目的税であるからということで税率の改正されたことを私は記憶しているわけでございます。

そうした面の目的達成度合い、それによって免除ないし解除というものができるということになれば、農用地については国の法律でそうなったけれども市の段階でもって農地なり農村全体について除外するとかそういうことはできないかどうか。館山市は都市計画事業でもってやらなければならぬことが非常に多いわけでございますから、したがって、これをなくすことによって館山市の都市計画というものが十分に進捗されないということになればまだ問題があるかもわからない、全体的に目的が達成されていないのでこの目的税をやめるというわけにはいかないかもわかりませけれども、しかしそういうた不合理があるという点については一考しなければならぬんじゃないかと思うわけです。

そこで、もう一つ聞きたいことは、農用地というんですか、これは同じ農地の中でも、隣りと隣り合わせて除外と除外でないところがあるわけです。たとえば私の知っている人でつい最近の生活相談で受けた中でもって、その土地はいずれ子供が独立してから家を建ててやりたいと思うので家を建てるようにするんだ、

今度は都市計画税が免除になるので、これを申請すれば都市計画税が免除になるけれども、しかしそうでない、転用するという形でもって申請しておけば少し税金は高くなるけれども先へ行って住宅を建てるるとき建てられるようになるんだ、これはどのくらい税金の差があるんですかということについて最近相談にのったことがあるわけです。

それは、すぐ同じ田んぼというんですか、畑の中で隣り合って両方が農用地になっていてそのところだけ除外してもらいたいんだということも簡単に申請でもってできるという状況がある、そうすると、何か都市計画事業云々という中で非常に、そういう一つの、こういう畑があると、ここだけは将来に家を建てるから除外しておきたいということは可能である。もちろんその場合にはある程度道路があるふちでございしますから、そういう特殊条件があるかもしれないけれども、そういうことが現実にあるわけでしょう。

そうすると、このAという部分については農用地になっておる、Bというのを分筆してBは農用地外になっておる、そしてCという隣りの地続きで分括してCは農用地になって免除になる。事実子供なんか将来家を建てるまでの間同じ米をつくっておる田んぼにありながら、そういう都市計画税というもとで——ほかの固定資産税の免除云々ということだったら別ですけれども、目的税であるところの都市計画税が免除になっていくわけでしょ、この矛盾はどういうふうになっているのか。現実的に転用された場合にそれでいいじゃないか、農振地域でありながら農用地というものとそうでないものが出ておるとい、このことについて

税の公平というんですか、課税を免除しなきゃならないというわけか、やさしい説明をひとつお願いしたいと思います。

○税務課長(斉藤武男君) 都市計画法の適用の状況でございますけれども、都市計画法の第五条の都市計画区域に現在館山市は土地家屋を課税対象としているわけでございますけれども、その同法の第七条にいわゆる市街化区域でありますとか、市街化調整区域、いわゆる用途地域でございますけれども、これに本来かけるのが適当であるわけでございますが、これがいわゆる十万未満の市につきましてはまだ設定されておらないわけでございます。でございますので、当分の間、これが設定するまでの間、いわゆる都市計画区域の土地及び家屋に対して課税することも適当であるんだというような地方税法の根拠に基づきまして現在館山市はやっておるわけでございます。

それから、第二点目の農用地の関係とそれ以外の関係でございますが、お話のように確かにそういうふうな点がございす。私もこの条例の改正につきましてそういう点を種々検討したわけでございますが、いわゆる線引きの問題が非常に難しいわけでございます。これはご存じだと思つてございすけれども、どこからどこまでそういうようなものを設けるかということとは非常に難しいわけでございす。困難なわけでございす。したがいまして農用地の關係のみを一応線引きをいたしまして、このようにお願いをいたしたわけでございす。

○議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございせんか。

○一八番(渡辺軍治郎君) 先ほどの質問に続きますけれども、地方税法の七百二条では——どういうところに都市計画税をかける

かというよう内容に触れるわけですが、市町村は都市計画法に基づいて行ふ都市計画事業その費用に充てる、もう一つは土地区画整理法に基づいて行ふ土地区画整理事業に要する費用に充てるためにということではっきりとした目的がうたわれているわけですね。そうしますと、館山市では一体どういふ——区画整理の問題は別として、どういふ都市計画事業のために都市計画税をかけてきたのか。その点をひとつはっきりさせていただきたいと思ひます。

○市長(半沢良一君) 都市計画税は、館山市の場合におきましては昭和三十一年に条例化されておりました、それ以来今日まで二十何年実施いたしておるわけでございす。従来もそうでございしましたが、先ほどお答えいたしましたように都市化的諸施設を充実するために支出してまいりたい、今後そのつもりでございす。

○一八番(渡辺軍治郎君) 私が聞いているのは、事業の内容について聞いているわけです。どういふ事業をやるために使ってきたのか。

○市長(半沢良一君) 公園とか、道路とか、排水路とか、そういう都市化的な諸施設でございす。

○一八番(渡辺軍治郎君) 先どもも聞いているんですが、そういう事業をやるための目的税としてかけたわけでしょう。そうしたらその事業がどの程度進行しているのか、もう終わったのか、これから続けてやっていくのか、続けていくとすればどういふところにその金を使うのか、そういうことがはっきりしなければ目的税のそれはわからないと思ひます。

たとえば、三十一年にそういうことで決まったといつても、そ

のときに何を目的に決めたのか。たとえばわれわれは市街地に住んでいいますから道路の舗装とかそういうものがやられない前は相当迷惑をこうむっていたわけです。しかし道路の舗装が進んで市民は喜んでいて、そのために税金が使われているということなら目的としてはっきりすると思うんです。いま道路の舗装というのは四〇％を超えてかなり進んでいるわけです。完成に近い。たとえば道路の問題だけ一つとれば、そうなれば当然この目的税は廃止されていいじゃないですか。農振地域だけじゃなしに全体としてですよ。

目的がはっきりしないで、その目的がどの程度まで達成したのか、そういうものもはっきりしない。ただ漫然と都市計画税をとっているということだったら市民は納得しないと思うんです。その点をお聞きしているわけで、聞いてもあまり事業内容がはっきりしてないわけです。ただ抽象的に都市計画法五条に基づいて区域指定をしたから、ただそれだけで該当する人たちに都市計画税をかけるということだと、都市計画税はもう余分なものじゃないか。

これから先公園にすれば具体的にどこにどういふ公園をつくる、そのためにこの税金が使われるんだということではないとはっきりしないわけです。だから農振地域だけが税を免除されるといっても、市街地に住んでいる人たちは一体どういふ目的のために税金が使われるんだということではっきりしなければ、納税意欲が出てこないんじゃないんですか。最近固定資産税の滞納がいつも問題になりますけれども、七千万ぐらい固定資産税の滞納がある、ということは、固定資産税というのは所得に応じてかける

税金じゃないわけです。所得のない人にはかなり重い税金になっている。そういう点から考えますと都市計画税というのは無視できないと思うんです。

そういう点をお聞きしているんで、固定資産税の目的税である客体といいますが、事業の内容、そういうもの、それと経過、そういうようなものをはっきりさせていただきたいと思います。まだそういうことでは何回も繰り返しますけれども回答は不十分ですよ。

〇市長（半沢良一君） 先ほども御答弁申し上げましたように、公園だとか、道路の舗装とか、下水路とか、そうした都市化的な諸施設の財源として使っているわけでございまして、まだまだ十分に都市化的な諸施設ができていない現状でございまして、今後この課税をしていきたいと考えているわけでございます。

いまここでどれだけのものということは、まだまだ全体的な計画を見直さなければ御答弁できない次第でございします。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 道路のことは私がいま一つ例を出したんです。道路の舗装というものは市が道路を管理しているわけです。市が責任で道路の補修とか修理をするのはあたりまえの話なんで、都市計画税の中には含まれていないと思うんです。特別の事業ですよ。都市計画としての、そういう事業がはっきりしないで何のために都市計画税を納めるんですか。全く話にならないですよ。

だから、農振地域ははずされるということは、農振地域はあまり関係ないという、ただこれは区域だけの問題でしょう、館山市の用途指定をした。都市計画のあれを見ればただ用途指定をして

いるだけですよ。はっきりとした都市計画の目的がないわけですよ。それでいて都市計画税をとるという、これはもしそういうあれがなければ全部廃止すべきだと思ふんですよ。目的がはっきりしなければ、これは農振地域だけの問題じゃないんですよ、一定の地域を指定してそこでどういうものを作るかということでも、そこで都市計画税はかけられるわけでしよう。そういう客体ははっきりしないで税金をとるということはおかしいじゃないですか、どうですかそういう点は、みんな都市計画税の際やめたらどうでしょうか。(笑声) 農振地域だけじゃなしに全部やめたらどうですか。目的のはっきりしないものに対して税金をかけるというのは、その点どうお考えですか。

○市長(半沢良一君) 現在の館山市の財政状況、歳入状況からこれをやめるということは考えられません。

○議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

討

論

○議長(吉田勇治郎君) 討論に入ります。

○一二番(栗原一雄君) 議案第七十一号に賛成いたします。

目的税である都市計画税が農業振興法に基づく区域に適用されていることは性格的には異質なもので、農用地区域を除外することは用途目的のためまえから当然の措置として適切であろうと存じます。

〔「棄権なんて意思表示ない。」、「休憩」との声あり〕

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午前十時四十四分 休 憩

午前十一時 十二分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

発言の取り消し

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

一八番議員君より今回の討論を全面削除したいという申し込みがございましたが、これを許可するに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって一八番議員君の討論の発言は全面削除することに決しました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第七十二号昭和五十二年

度一般会計補正予算を議題といたします。

議案第七十二号 昭和五十二年度館山市一般会計補正予算（第二号）

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○二八番（石井 正君） 御質問申し上げます。

最近事項別明細書の説明が非常に簡単になって、説明欄をお読みなさいという言葉が多いようですが、これはどういことがあったかわかりませんが、特に当初予算は莫大なページが必要かもしれません、補正予算においてはもう少しこまかくていねいな説明がほしいと思うんですが、これは私だけではないと思います。そういう意味から項目別に浅く広く御質問を申し上げます。

まず、一七ページの八節の報償費弁護士謝礼ですが、これは前から事件があって、前にも出た記憶がございますが、今回補正でございしますのでどんな事例で謝礼をしたのか内容の説明を求めます。

次に、下の二三節の償還金税外収入の還付金、この内容について御説明願いたいと思います。

次に、二一ページの一九節老人クラブの関係ですが、補助金を減額して連合会の補助金をふやしているわけでございますが、これの関係を。これは私が聞き漏らしたかもしれませんが……。

それから、二三ページ一八節機械器具費、これは保育園のガストロブ購入というようなお話でしたが、最近学校関係の火災が非常に多いんでガストロブの危険防止——危険防止というのは、

これは一つは子供ですからやけど等の危険防止と、もう一つは火災の危険防止についてどういう指導をしておられるか、その点をお聞きたいします。

次に、二五ページの二三節、これはごみの関係ですが、犬石の土地につきまして調査費が出ておりますが、現在の佐野の処理場はあと余地がどのくらいあるのか。ないから犬石に決めたんじやないかと思いますが、もしこれが決まったなら何カ月ぐらいの使用が可能であるか。また今後の見通し——佐野の場所もたいした広さじゃなかったんで二、三カ月で埋まったんじやないかということになると思うんですが、この犬石の使用も何カ月ぐらい使用ができるかという、そういう見通しについてお伺いいたします。

次に、同ページの一一節需用費の中の処理場の関係ですが、いろいろと処理場につきましては修理をし、努力をしておるんですが、新聞にも御案内のようにバンク寸前であるとかというような言葉が出てゐるんですが、現状はどうなのか。今後どのくらい使用が可能であるのか。また新設については見通しはどうなっているのか。その後の経過について明らかにしていただきたい。

長くなりますので、このくらいで御答弁願います。

〇庶務課長（網島憲治君） 最初の弁護士報償金につきまして、事件の概要を御説明申し上げます。

今回新たに訴訟を起こされたわけでございますけれども、内容とすると同じでございます。例の城山に住んでいらっしゃる五十嵐 巖さんという方が原告で、被告といたしましては館山市長並びに千葉県知事二名が被告となって訴訟を五十二年十月二十四日に起こされたわけでございます。

内容といたしますと、違法確認請求行政訴訟というものでございますが、館山市長並びに千葉県知事が公園の管理義務を怠っているという内容でございます。それを確認をしてほしいということでございます。

前回同じような関係で訴訟を起こされましたが却下になったわけです。そのときは千葉県知事が相手ではなくて、館山市長だけが相手だったわけですが、それに千葉県知事は監督責任者であるというものを付け加えまして新しく訴訟を起こされました。第一回の裁判があったわけでございます。明けて第二回目が行われるというところでございます。そのための費用といたしまして新たに五万円不足する見込みでございますので補正をお願いしたわけでございます。

以上。

〇福祉事務所長（越路良夫君） 続きまして一七ページの二七節償還金利子及び割引料の関係でございますが、これは昭和五十一年度に老人医療費が支払われまして、それに対する県の負担金実績との比較において超過収入ということに相なったわけでございます。前年五十一年度に県負担金といたしまして収入しましたのが二千四百二十一万六千六百八十五円でございました。これが五十一年度終了いたしましたのでその実績が二千三百八十六万九千九百三十六円、この差が三十四万六千七百四十九円でございます。これを今回県に対して返還が必要になったわけでございます。ここに償還金として計上されたわけでございます。

それから、次の二一ページ一九節の負担金及び交付金でございます。老人クラブに対する補助金でございますが、これは単位老

人クラブが当初予算積算時点では四千五百円ということで予算化したわけですが、これが今回四千円ということでこれを定めました。

なお、老人クラブ連合会に対しては、当初予算で一単位五百円でしたが、これは七百元ということでここに二百円の差が生じたものでございます。

なお、当初百七クラブを予定いたしましたところ、現時点では百十クラブということで、それぞれの差をここにプラス、あるいはマイナスをしたものでございます。

それから、二三ページになりますが一八節の備品購入費の關係でございますが、保育園におきます石油ストーブの購入費等でございますが、これに関連してのやけど対策、あるいは火災指導等の關係でございますが、やけど対策につきましては、これは子供たちはもちろん保母の指導下にありますので、保母のやけどに対する、石油ストーブの周辺に対する配慮等は十分いたしておるわけでございます。具体的には石油ストーブの周辺へとガードを張るといふようなことをしているわけでございます。

なお、火災につきましては、これは園長等で防火管理者というような資格も全員持っておりますし、園長指揮のもとに保母が十分にこいうものの火災、あるいはやけど対策等をとっているわけでございます。

〇衛生課長（石井 謙君） 二五ページの一三節につきましてお答え申し上げます。

五十一年度でごみの埋め立て關係で佐野は終わったわけでございます。五十二年度の当初から犬石の約二十アールの土地をお借り

いたしましてごみの埋め立てを行っているわけですが、いままでカラス等の被害がございましたので、サンドイッチ方式でごみにどろを加えて行っておったわけでございます。その土の量を多くしたために、大体当初の考え方は五十二年一ぱい程度もつんではなかつたかと思つていたわけですが、大体一月一ぱいでそれが終了するというような形で、急遽、周辺にたまたま先般御説明申し上げましたように三人の地主による五十アール程度の土地が協力が得られそうなのでございますので、それとまた犬石の部落の御協力も得られる、そういうことでその方向に向けていろいろ調査等をいたしたいということでございます。これが実施できれば約二年程度はこれが利用できるんじゃないかというふうに考えております。

その次に、一一節の——現在し尿処理場の状況でございますが前年度ガスタンクがガス漏れ等がありまして使用が不可能になりましたのでこれは新設いたしました、そのほかに機械器具が来月の三月一ぱいで十五年経過するような状況でございます、総体的に機械類が傷んでおるわけでございますが、これは今まで相当の補修、脱水機の修理とか、いろんな面で補修、補修で運営をしておるわけでございます。

今後どの程度もつかということについては、いまここで何年ということは申し上げられませんが、補修によってなんとかもたしていかなければいけないというのが現状であるわけでございます。それから、新設の見通しでございますが、いま申し上げましたような機械の老朽化でございますので、これはもう一日も早くということと気持ち焦つておるわけでございます。敷地の問題等

でなかなか進行しておらないわけでございますが、私の考え方をいたしましたは、なんとか三月一ぱい程度に土地の方向づけをいたしたいというような考え方でおるわけでございますが、これも二、三有力候補地を挙げまして現在検討中でもあるし、また発表いたしますと前回のような轍を踏んじゃまずいなという考え方もございますので、秘密裏にいろいろこまかい点まで調査検討している現状でございます。新設につきましては、土地が決まりました時点で早急にこれをいたしたいというふうに考えております。

〇二八番（石井 正君） 保育所の関係ですけれども、保育所の園長さんには資格があるとかないとかというんじゃないで、もっと具体的に、たとえばどういう対策をしているか、そういう点をお聞きしたかったわけです。ですから、実際に行つて指導をしているんじゃないかと思うんですが、そういう点がわかりましたら、私が見に行けばわかるんですが、そういう点をお伺いいたします。

それから、ごみ処理場の関係では大石が調査中ですが、これが許可になれば二年間——これがならない場合にはどういうお考えを持っているか、この点をお聞きしたいと思います。

〇福祉事務所長（越路良夫君） 火災対策の関係でございますが、これにつきましては常時火災に対する危険思想の普及はもちろんでございますが、なおまた水の問題、あるいはその避難関係につきましても誘導関係、避難訓練につきましては毎月各園とも実施するというような指導等十分防火思想の普及、徹底を含めて指導いたしております。

〇衛生課長（石井 謙君） 大石の土地でございますが、これは大體地主さんの承諾も得られそうであるし、また部落の協力も得られそうであるし、そういう見通しが立った時点で専門家に現地を調査してもらったわけでございます。これはもちろん委託と違ひまして、ただ外観的にいままでの経験等によつてそれを見ていたところ、大體部落から約一キロ程度離れているところでございますので、この辺なら差し支えないんじゃないかという、部落で心配しているのは、井戸水に影響があるかということをお配しておるようでございますが、専門家の話では距離も相当あるというところで大變明るい見通しの説明を受けたわけでございます。しかし、これを検査してためだつたらしいことについては、一、二候補地も考えておるわけでございますが、九〇％程度はことを頼つておるのが現状でございます。

〇二八番（石井 正君） 保育所のほうはまだいいんですけれども、たとえばストープに覆いをしてそばに寄らないようにするとか、そういうような具体的なことをお聞きしたかったわけです。買つてないんですね、買つてないんじゃないでしょうか。買いましたらそういうような予防をひとつ十分やっていただきたいということを要望しておきます。

それから、ごみの関係ですけれども、うまくいけばいいんですけれども、私も清掃委員の一人ですので心配してみているんですが、あそこも裏のほうが大分山になつていゝんです。そこでごみを燃しております。非常に公害もありますし、ああいうところを新設しようという人に見せたら、こういうことをされたんじゃないかめだといふに言われちゃいますよ。そういう状態なんで、私とし

ては犬石には広い土地もあるし、たくさんほしいわけです、そういう意味で御質問申し上げたわけです、ひとつ重々努力してもらいたいと思います。

それでは次に移らせてもらいます。

二八ページの商工業振興費二二節中小企業融資補填金、この内容を説明したいと思っています。

それから、三三ページの一八節、これは教育関係放送センターの備品購入ですが、きのう説明欄によって買うというだけですが具体的にどういうものを買うのか。

それから、三五ページの一三節委託料、これは国分寺の調査なんです、われわれもあそこを視察したわけですが、これも、百万円残してどの程度までやったのか、どういう結果でこれだけ余ったのか。そういう報告がないのでひとつこの点の説明をお願いします。

以上三点。

〇商工観光課長（中村正雄君） 二八ページの二目商工業振興費の十九万九千円の内容でございますが、昨年の十二月融資委員会におきまして市の制度融資を行いました中で一店——富田商店でございますが、債務が不履行というようになりました関係で当然債務不履行に対しまして、取り扱い金融機関から信用保証協会に対しまして代位弁済方を要請されたわけでございます。その代位弁済に対しまして信用保証協会が行いました場合には市町村がその代位弁済額の十分の一を負担するということになっているわけでございます。当初予算で千円の予算が組んでありましたが関係で二十万の不足額の十九万九千円を計上いたしました次第でございます。

ます。

〇学務体育課長（黒川邦保君） 三三ページの放送センター費の一八節備品購入費五十九万五千円の内容でございます。

機械器具費二十九万五千円とございますけれども、これにつきましては放送センターで録画教材作成装置を購入のためでございます。

下にございます教材購入費三十万円につきましては、映画教材購入費が十五万、録音テープの購入費が十五万となっております。以上、この支出によりまして、放送センターの教材を作成し、利用に供することとございます。

〇社教文化課長（川名 備君） 三五ページの一三節の委託料百万円の減額について御説明を申し上げます。

国分寺の発掘調査でございますが、当初三カ年計画、総事業費一千万円の計画で始めたわけでございます。第一年度が五十一年度から始まりまして県の委託事業で二百万、五十二年度四百万、五十三年度四百万、計一千万の計画でございました。それが、今年度四百万のものが国の補助金の確定の時点で三百万、総事業費で百万落ちたわけでございます。実際には国からの補助金が五十万、県から二十五万、市の一般財源で二十五万、合わせて百万の減額ということとございます。

本年度行いました仕事の内容でございますが、主に発掘でございます。そうしまして寺域の確認がされたということ、国分寺の本堂跡が確認されたという二つが大きな成果となっております。来年度、したがっていまの計画ですと、残りの五百万事業ということと計画が進められています。

〇一〇番（流山源次郎君） 二七ページ三項の二目ですが、一九節

のクルマエビ放流事業補助金ということになっておりますが、これにつきましてクルマエビ等の放流事業をしてもらって感謝しておる次第でございます。漁港関係につきましては、また働く漁民等を見ましても、毎年の放流に對しまして非常に成果の上がっておりますということは注目すべき問題であって感謝するわけでございます。

最近館山で地曳き網が観光の目玉的な事業となりまして、大々的に観光としての旅館、ホテル等におきまして宣伝しております、行われておるわけでございますが、クルマエビを放流するのが北条海岸であって、その地先で地曳きが以前と違ってひっきりなしに行われているということで、育ち盛りの稚魚に影響があるかないか、この点につきまして各漁協から何か話があつたかどうか。この点についてちょっとお聞かせ願いたいと思います。

〇農水産課長（佐野甲子郎君） ただいまの御質問のクルマエビ放流後育つ時期に影響があるかどうかというようなことは、組合からまだ聞いておりません。

〇一〇番（流山源次郎君） 組合から具体的にそういうことを聞いてなければ、そういうあれがなければいいんですが、最近新聞等を見ましても、地曳き網を主催する当事者同士がもう魚がなくなつてしまったということで、一回地曳き網をやるたびにほかから魚を求めてこなければいかんということで、地曳き網がひっきりなしで行われているということは業者自身が言っているという話なんで、われわれが直接そばに行つたわけじゃないんですが、たまたま市役所に来る途中に北条海岸を通りますと、ホテルなり旅

館の前によく漁師ことばでじゃみたり、じゃみたりといって、小さい魚が地曳きが揚がったら一ぱい置いてあるわけなんです。そうすると、いままでは地曳き網業者が水産業として自分で、観光でなくてやっておる場合には、小さい魚は大きく育つわけですから、小さいのは海に放流して、大きい商売になる魚だけを水揚げしておつたわけでございますが、現在観光で地曳き網を一網幾らということになる、入つた魚は小さいのも構わず全部揚げちゃうわけなんです。

魚の資源というものを考えると、われわれいままでは漁業関係やつてきたものから考えると、稚魚で育つうちのそれをむやみやたらに、一網幾らでやつたんだから揚げなければいかぬというように制度でやつてしまつたら影響はないのかという心配があつたので質問したんですが、この点水産課のほうとしても今後の調査をお願いしたいと思います。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 今回の補正予算は大体人件費が中心になつていふと思うんですが、歳入の面について伺います。

一〇ページの市民税、固定資産税、この補正で約七千万円出ているわけですが、当初予算では人件費の値上がりを見越して一割程度の予算は組んであつたと思うんですが、大体給与関係のあとの方を見ますと、給与改定の留保分として六千六百六十八万七千円ですか、こういうものが要するに減額になつていふわけですよ。こういう中で給与改定が行われたわけですが、この留保分とそれから市民税の見計上分として挙げた七千四百六十六万六千円、いま非常に不況の中で市民の税収入が減退していく方向にあるんじゃないか。ことに固定資産税の滞納なんかはかなり多いわけですが、そ

ういう中で市民税、固定資産税の増加が相当無理な計上ではないかというふうに考えられますが、留保分とこの市税の増加分との関係を御説明願いたいと思います。

○財政課長(山田俊康君) 留保分の関係でございますが、留保分は地方交付税の普通交付税の算定にあたりましては五%の賃金アップを見込むということで、普通交付税の算定がずつとなされております。それに基づきまして普通交付税の予算を全額計上いたしました関係から、給与の留保分を計上した次第です。

なお、市税市民税の個人につきましては、当初見込んだものよりも現在の調定現額に比較しまして、現在の調定現額がこのような数字になっております。それに基づいて当初予算に計上しなかつた差額未計上分を今回お願いした次第でございます。

○一三番(林 豊君) 二六ページの農林水産業費の八節報償費でございますが、標準小作料設定協議会委員報償金十万円でございます。この協議会の編成、それからことし行われました委員会の数、それからここで決定をされました標準小作料の趨勢等についてお聞かせを願いたいと思います。

○農業委員会事務局長(石原 斉君) 標準小作料設定事務につきましては、農業委員会には館山市小作料協議会という規約がございます。その規約に基づきまして、構成は貸し手代表が五名、借り手代表五名、知識経験者五名、こういう構成になっております。

そこで、ちょうど来年は前回改正をいたしました時点から三年目に当たるわけですが、これは農地法第二十四条に標準小作料の設定の業務が農業委員会の役割として定められております。そこで来年ちよどこの規約に基づきまして三年を経過いたしますの

で、来年早々この協議会に諮って新しい標準小作料を設定していきたい、このように考えているわけでございます。

前回設定いたしました標準小作料は、田と畑に二つに分かれてございます。まず田につきましては、上田と中田と下田、この三つの区分に分けてございます。上が十アル当たり二万五千元、中が二万円、下が一万五千元。それから畑につきましては一律一万円、こういうような数字になっております。

当然、それから農家経済——いわゆる物価とか、農業資材とか器具とか、そういうような経済事情の変動がございますので、それに適応する標準小作料を設定していかなければならない、こういうふうになっておまして、これは全国一斉に行われる制度でございます。

○一三番(林 豊君) もう一つ深くお聞きをしたいんですが、館山市で決められた二万五千元、二万、一万五千元という田の小作料の設定について、その後当市では小作人あるいは地主から意見を聞いたことがございますか。

また、苦情等が市に持ち込まれたことがありますかどうか。

また、さらに局界さんのおっしゃいました小作料のうち、特に最近行われております基盤整備事業区域、また基盤整備事業を行わない区域に差があるかどうか、そういう点を調査をなすったところがあるかお聞きいたします。

○農業委員会事務局長(石原 斉君) たまには小作料の額について相談に来られる方がございます。あくまでも農業委員会が設定しました標準でございますので、ここには一筆、一筆ごとに地理とか交通の便とか、それぞれ違うわけでございますが、そこで最

終的に決定するのは両者で協議していただくというふうに指導をしております。ただ、あまり小作料が高いとか低いとかというようなことになりますとやはりバランスが崩れますので、特に高い場合それについて指導はしておりますけれども、大きな問題としてそれが紛争の過程まで落ち込んだというケースはいままで一回もございません。大体事務局の段階でお話ししまして納得していただいております。

次に、いわゆる西部、東部に分けます構造改善事業に伴う小作ということが関連が出てきております。当然構造改善によって地主さんは返してもらいたいという、こういうような意見もたまには出てまいります。これはもちろん貸借関係におきましては農地法で規定が設けてありますので、一方的な解約はできないということになっております。いろいろ構造改善に伴うことが出てまいります、そういうときにはよく法律の趣旨や実態等を調べまして、また地元の農業委員さんを介しまして円満に解決しておりますので、その問題についてはいまのところ紛争はございません。以上でございます。

〇 一三番 (林 豊君) 了解しました。

〇 議長 (吉田勇治郎君) 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十四分 休憩
午後 一時 一分 再開

〇 議長 (吉田勇治郎君) 午後の出席議員数二十三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

〇 一五番 (辻田 実君) 五点ほどについて御質問申し上げたいと

思います。

最初に六ページ債務負担行為の補正についてでございますけれども、この布沼農道舗装工事組合というものの事業範囲並びに事務所所在地、できたら代表者、構成世帯について説明をいただきたいと思っております。

それから、二番目に一三ページの一六款諸収入の中におきまところの雑入でございます。予防接種等実費徴収金でございますけれども、これはどのような計算をされたのかお伺いしたいと思っております。

これと関連しまして、支出との兼ね合いになるわけでございますけれども、二四ページにとびまして、ここでもって予防接種の諸経費が出されておるわけでございます。この二目予防費の説明に関しましては、風しんの予防を高校生までを対象に行うという説明であつたわけでございます。これは実際的にはどのような形で行われるのか。高校生までというは何歳から何歳までか。その人数とこの関係についてお聞かせをいただきたいと思っております。

それから、次に二二ページ三目の七節の臨時賃金でございますけれども、これは退職した保母さんのかわりに臨時採用をした者の賃金だ、こういうことでございますけれども、保母の場合現在退職等の都度こういう形でもって補っていかねければならないのかどうなのか。ある程度余裕、そういうものは見通せないものかどうなのかということがまず第一点。

と同時に、臨時職員の保母の資格と、それから身分制度はどうなっておるかということ。——質問の要旨わかるでしょう。保母の資格者であつたのか。臨時で入れるということとはあく

までも臨時でもって済むものなのか。現在新しく採用されるものなのか。今日におきますところの身分関係はどうなっておるのか。この者については、将来的には新しい採用者なりそういう者が出てきた時点でもって解雇というんですか、あくまでも臨時だから、こういう性質のものなのか。これは一般の無資格職種の場合には臨時的なことでもってあるかと思えますけれども、有資格の問題だけにこの点の状況がどうなっておるのかその点をもう少し説明をいただきたいと思えます。

それから、三六ページの二目体育施設費のうち二節給料、一五節工事請負費、一七節公有財産購入費についてそれぞれ質問をいたしたいと思うわけでございます。

ここで、体育施設関係のものについて一般職員の給料が減額になっていきますけれども、これはどうした内容なのか。他はベースアップによって増額になっておるんですけれども、どういう形で逆に減ったのかということについて説明がございませんでしたので、減額理由を明らかにしていただきたい。

二番目に工事請負費でございすけれども、これはどのようになっておるのかということについてお伺いしたいわけでございます。

今日市民運動場については、見るところ工事も進んでおります。当初予算においてもすでに契約は決まっておるわけでございすけれども、その事業から新たに追加になるのか、どういう形でもってこの状況が出てきたのか、今日行っているところの事業との関係において新しい部分なのかどうか、その説明が単に一中の運動公園に対するとおるの工事請負費の増額分、こういう説明

であつたわけでございますけれども、この点をひとつ、新規のものなのかどうかということについて内容を明らかにしていただきたい。

同時に、収入の部と関連いたしますけれども、国庫補助金が五百万円減額になっておるわけでございます。と同時に、この見返りのというんですか、合わせまして地方債が千六百九十万増加になっておるわけでございます。私はこの現象を見まして、昨日の討論の延長になりますけれども、市長さんは起債等は借金財政じゃない。積極予算の執行だ、こういう形で御理解をいただきたいという答弁に終始されておりましたけれども、私はこの額は非常に額は少ないけれども重要な問題だと思えます。当初予算において国庫補助金が予算化されておったものが五百万円減るということと、これは今日の段階で補助金というものは一遍にもらうものですから、これは非常に財源として重要なものでございます。しながら地方債につきましては、当初予算でもって一中関係のものについては二千万円、そして今回千六百万円を追加しまして三千六百万円の補正が同じく起債のほうについて地方債の補正ということで七ページに計上されておるわけでございますけれども、地方債というのは返済しなきゃならないわけでございます。今回のこの一中の公園のものにいたしましたも、期間が二十五年以内の償還というこういう形になっておるわけでございまして、長期にわたりまして利率が八・三%以内をもって行っていく、こういうことでございます。

私は、市当局といたしましては、市民の利益、それから長期的な予算の執行を考えた場合に、起債よりもむしろ補助金に全力を

尽くして補助金をもらうという形の中で事業を執行するという姿勢がどう見ても好ましいのではないかと思います。今日中央政府は借金財政によりまして公共事業を推進していますから、われわれにどうぞお使いくださいというのであるから、それをもらうことによつて——みすみすもらえる補助金が減るといふのが出てきているのではないか。これは今日の時点では四百六十万円の事業を行うにはこの起債を仰がなければならぬということになるのかもしれないけれども、そこらへんの関係を詳しく説明をしていただきたいと思います。

それから、一七節の公有財産購入費でございますけれども、この場所はどのへんになるのか。いままで幾つか公表されておりまして、けれども、あとあそこの公園予定地内、また将来買収をしなければならぬという土地はまだ残っておるのかどうか、その点について説明をいただきたいと思ひます。

以上四点について御質問申し上げたいと思ひます。

○農水産課長(佐野甲子郎君) 布沼の農道舗装の関係でございますが、名称は布沼農道舗装工事組合でございます。事務所の所在地は布沼八一四番地、代表者の氏名は組合長吉沢 豊でございます。内容につきましては今回の農道の舗装工事でございます。構成世帯は受益農家四十三戸でございます。

○保健課長(吉岡政雄君) 一三ページの雑入の予防接種等実費徴収金につきまして御説明申し上げます。

今回ここに計上させていただきました二百五十九万の内訳はインフルエンザ、これは高校生でございます。先般御説明申し上げましたのは高等学校の生徒はインフルエンザはことし初めて実

施するという御説明をいたしました。それが延べ五千五百十人でございます。単位四百五十円でございます。この四百五十円というものは、予防接種法第二十三条によりまして、政令によりまして厚生大臣に決められた額というものがございまして。この額は歳出のほうで御説明申し上げますが、また風しんにつきましては五百円いただいております。二百二十一名を実施いたしました。この風しんにつきましては、満十三歳に達する日の属する年度の施行令が改正になりまして、満十三歳に達する日の属する年度から満十五歳の誕生日の属する年度までの女子を対象にというところでございまして、これは厚生省の特例がございまして、本年に限り中学三年生を対象にして実施されたいという通達がございました。これに基づきまして先般十二月でしたか、校長会がございましたときに、各校長先生にお話し申し上げ、各父兄に文書を出しますというところで御了解をいただきましたが、各父兄に文書を差し上げました。風しんは御存じと思いますが、妊娠中に風しんにかかりますと奇形児の発生率が非常に高い、とういうことから風しんというものが、中学三年生なら妊娠はないだろう、幸い館山ではないようでございますが、実施したわけでございます。そういうふうな根拠のもとに計上させていただきました。

次の二四ページのそれに対応いたします歳出でございます。実費徴収につきましては——実費徴収と申しますのは、もちろん薬剤、これは予防接種法の施行令の五条に決められておりまして、薬品、材料または予防接種を行うためのお医者さんに対して報酬でございます。こうしたものを含めたものを実費徴収するということでございます。ここに定めました一節の報酬五十万円、

これは風しんに対しましては十一人、それからインフルエンザにつきましては三十九人、これで五十人分でございます。これは五十万円でございます。それから一節の需用費の二百九万九千四でございますが、これはすべてインフルエンザのワクチンの購入費でございます。風しんワクチンの購入費につきましては予算の残と申しますか、そういうようなところから二十四万六千円ばかりでございますが、それは当初予算の中で一応買えた額でございますので今回ここに計上してございません。こういうわけでここに二百九万九千四という薬品費と報酬の五十万で二百五十九万九千四、これに対応するところの実費徴収といたしまして二百五十九万四計上させていただいたわけでございます。

○福祉事務所長（越路良夫君） 続きまして二二ページの保育園の臨時職員関係について御説明申し上げます。

これは現在保育園におきます保母の仕事をやっておりますのが五十二名あったわけでございます。ところがそのうち一名が退職というふうな時点になりましたので、ここにその一名を補充する意味で臨時職員としてここに計上したわけでございますが、保母につきましては厚生省で定めます基準がございまして、三歳未満、三歳児、四歳以上というそれぞれの基準がございまして、その基準を下回らないというような制度がございまして、

今回ここに臨時職員ということで予定しました者は、保母の資格を有するものを確保いたしまして、その者は来年三月までを予定しているわけでございます。ということ、過日保母の採用試験もございまして確定をしているわけでございますが、その採用時点の見込みが四月一日でございますので、その間の三月三十一

日までのものをこの保母によって補っている、そういう意味のものでございます。

○学務体育課長（黒川邦保君） 三六ページの一五節の体育施設費の工事請負費四百六十四万の件でございます。これは一中跡の市民運動場のグラウンド整備のための施設費でございます。主たるものとしてはテニスコート施設、野球場、相撲場の屋根などの整備のためのものでございます。

それから、この補正と当初にあるものとの関係でございますが当初に予定しましたものとしては野球場のバックネット、ダグアウト、硬式テニス、便所、水飲み、足洗い場、水道設備等でございます。

市民運動場の建設費につきましては、当初一千八百万、この四百六十四万増額によりまして二千二百六十四万になりますけれども、そのうち土工事が七百九十六万でございます。残る一千四百六十八万、当初とただいまのお願いします十二月補正を含めまして、合わせまして整備を図るということでございます。

それから、次に一一ページの歳入の一節にあります体育施設費の整備補助金の五百万円、国庫補助を国へ返すということでございますが、これにつきましては、当初国庫補助を受けまして三倍の事業費として市民運動場を整備する計画で補助金申請事務を進めておりましたけれども、国の補助金申請事務の実施段階にありまして県より国有地に建設されます社会体育施設につきましては補助対象事業にならない旨の指導と連絡がありました。したがって国庫補助に該当しないために補助金の減額措置をここでお願いするわけでございます。

それから、三六ページ一七節の公有財産購入費八百四十五万三千円でございます。これにつきましては国有地でございます。二千九百七十二平米を購入するものでございます。これによってあと残り用地買収を要するような面積はいかほどかというお話でございしますが、九月補正、十二月補正をしてもなお残る用地は七千五百六平米でございます。一中の運動場の敷地総面積は三万九千四百三十七・六二平米でございます。このうち市有地が約二万七千、民有地が千九百二平米、国有地が一万四百七十八平米でございす。以上のうちから残るものがすべて処理し終るまで七千五百六平米ということでございます。

○人事課長(太田博雄君) 同じく体育施設費におきまして、給料手当等の減の関係でございすが、これは年度途中におきまして一名退職いたしました関係でございす。

○一五番(辻田 実君) まず最初の六ページの布沼農道工事組合でございすけれども、これは農道でございすけれども、こうした農道について、四十三世帯で二十年も返済していくというところについて、実際問題として継続性なりそういうものはどういうふうにみたらいいのかお伺いしたいと思うわけです。

普通、道路等については短期の事業等で行うと思うわけでございすし、一部落なり——これは部落単位だと思ひますけれども農地を要する地域だと思ひますけれども、こういうところに約一千万近く、内容としては六千八百万円の農林金融公庫から繰入金をしてやらなければならないという形はかなり農政指導の面等からいって無理があるように思ひますけれども、その点どうか。たとえば、二十年という世代がかわりますから、農業協同組

合とか全市的な、かつ長期的に、非常にあれがあるところ、でしたら問題はない、別だと思ひますけれども、こうした部落集団において、特に農業後継者のことが非常に問題になっておるような中において、部落の道路をつくるのに金を六百万も借りて、二十年間の長期で返すものを市が債務負担という形はちょっと理解ができない面もあるんですけれども、そこらの関係はどのようにお考えになるのか、再度質問いたしたいと思ひます。

それから、予防接種の問題でございすけれども、これは中学三年生五百二十一人が風しんということでもよろしゅうございすか。それで中学生をほぼ全面的に了解を得て風しんの予防接種をするということでもございまして、この予算の中では全額ではなくて一部分でございすけれども、この風しんというものについて中学三年生を義務的に行うというようなことでやらなきやらない根拠というんですか、また風しんの性格——病氣というとかしいんですけれども、伝染病じゃないことは事実ですけれども、それに準ずる扱いというものはあるんじゃないかとかように思ひわけでございす。

この種の面について、私は幾つかの県内の市町村において中学生の予防接種については全額または半額の負担というような形でもって行つておるところを幾つか知つております。そうしたことが前向きな姿勢というんですか、市のほうからいくと前向きかどうかわかりませんけれども、住民から見るとやはり社会的な病氣——中学三年生の女子学生五百二十一人を対象として任意といえども全員が行うべく、また受けなければ将来妊娠等をした場合に風しんにかかった場合に子供に影響が出てくるということ。これ

はやけり国ないし自治体において母性保護、また生まれてくる子供の権利、児童憲章の面、こういう面から当然私は行政の中で行うべきものじゃないか。これを承諾書をとったからといって全額医者ととの関係については五百円ということになっておるかもわかりませんけれども、何らかの五百円に対する補助ないしそういうものをみてやるほうが行政のたてまえからいいんじゃないか。これは館山市だけが急にじゃなくて、幾つかのところでそういうことをやられておるのを知っておりますので、それと合わせてこれをどのようにお考えになるのか、特に風しんだけですよ。

インフルエンザは、これはあくまでも社会的な義務はありませんから、個々ということになりますからこの額はいいんですけれども、風しんについて学生を対象に一斉にやるというと、そういうものについてはやはり行政として行うというと、行政で行うからにはそういう若干の裏づけも必要じゃないかというふうに思うわけです。この点についてどのようにお考えになっているのかお伺いしたいと思います。

それから、市民運動場の件でございますけれども、未買収地七千平米ということになるわけですね。あと買収予定地ということとでよろしゅうございますか、いまの説明です。

そうすると、私は予算運営上もう少しシビアに検討してもらいたいという感じがするんですけども、ただいまの説明ですと国有地の上に対処するところの事業に対しては補助対象にならない、こういうことです。そうすると、三倍の事業を行うために財源措置をとったけれども、たまたまついたということですけれども、今回二千七百平米国有地を買いたる予算が出たわけです。これはも

う少しそこらへんの国有地の払い下げ、買収、こういうものを完了して逐次的にやっていけば五百万というものはみすみす補助対象外にならなくてももらえるような——もううことのできるような可能性というものは十分あるんじゃないか。

国有地は払い下げが相当長期にわたって無理だということであれば別でございますけれども、今日ある市有地が二万七千平米、そして民間千百ですか、そして国有地は一万幾つという中で、そのうち買収が進んであと七千というふうにいま承ったわけですけれども、そういうことでよろしいかと思いますが、たとえ国有地の場合に一万平米——全体の三分の一でございますから、施設の建設等について設計上その他からいってもせっかく予算がつくような計画をしたんですから、市有地三分の二あるわけですから国有地は一万平米というんですから、そこらへんの計画を組みながらやれば五百万円、簡単かもわかりませんけれども、これだけの金が入ってきたらやるのと、起債でやるのでは上げ下げ大変じゃないか、こういったところの詰めをもう少し——いまの館山市の苦しい財政事情の中において起債をもって全部まかなっちゃうということよりも、もっと補助金をもらう、と同時に税收を上げるという二点に絞ってやっていくことが市の財政力を強めることになるし、と同時にそのことは長期的にみても市の財政について負担が軽減されるわけでございますから、そうした面の配慮はなされなかったものかどうか。

こういう形でもって補正予算が出てくるということについては私がいま申し上げましたファクターはごく一部かもしれないが、しかしながらもっと検討すればこういう問題が明らかになってく

るかも知りませんけれども、これだけの資料でいま私が指摘するような状況というのがあるわけでございますから、昨日の討論等通じて、またこれまでの財政運営を通じて、非常に厳しい中において五百万円が補正予算の中で返さなければならぬ、それも国有地のために補助対象外になったということだけでは、予算運営、執行、予算編成について私は十分とは言いきれない、この面については十分反省を促し、また補助金の受け方、またはこうした事業を行うについても、起債の借り方についても考えが少し研究が足りないんじゃないかというように思われるわけでございますけれども、この点はいかなるものであったかどうか。

そして、残り七千平米の未買収ということでございますからその七千平米の内訳を再度国有地なのか民有地なのか明らかにしていただきたい。

と同時に、もう一点は、建設が二回にわたって行われているわけでございますから、今回の場合にはいろんなそういうものだといい説明でございますけれども、なおこれからの完成図はできておるかと思いますが、これからあそこの施設を完成されるについては、あとのくらしいの施設と予算が予想されるのか、その点について教えていただきたいと思ひます。

と同時に、今度のはまだ契約には入っておらないと思ひますけれども、これは再契約でもって新規事業をやるのかどうなのか、それともいままでの事業の増加ということでもって工事契約というものをやられるのかどうか、合わせてお伺いしたいと思ひます。

○農水産課長（佐野甲子郎君） 先ほどの借入額の六百八十万円に

対します返還のことでございますが、六百八十万円に対します元利は据え置き三年、償還二十年を含めまして市から補助するものでございます。

○保健課長（吉岡政雄君） 風しんのことでございますが、その根拠はなにかということでございますが、先ほどお話し申し上げましたように予防接種法施行令の一部改正がございまして、本年度から実施するということになったわけでございますが、そこで私先ほど五百円の二百二十一人分と申し上げました。在校生は三百八十三名でございますして、そのうち七三・三%が実施したということでございます。その実施の範囲は五十年にやはり大発生しまして、そのときにかかった方はやらなくてよろしい、やっても害ではないけれども、なお抗体がふえるけれどもということ、そういうことで定期の予防接種になりましたけれども、普通の定期のものとは違ひましてある程度順応性があるということで、特殊なものでございます。

それと、五百円の実費の額でございます。予防接種を行うためにはやはり地元医師会の先生方といろいろ協議しなければできないことでございますので、その際実費をちょうだいするのだけけれどもということと御相談申し上げました。実は先ほど申し上げましたとおり薬剤費として二十四万六千円、医師報酬十一万円でございまして、三十五万六千円ばかりがこれに要しているわけでございまして、これを二百二十一人について割りますと、一人当たり千六百十円かかっておるわけでございます。これは薬品代が一人当たり千三百円でございます。普通の予防接種と違ひまして一つ一つのアンブルに入っております、それで千三百円でござい

して、一人当たり千六百十四。それでどこのお医者さんでも——婦人科のお医者さんが特にやってくださるんですが、予防接種ではなく、おとなの方がやられるわけでございます。そういう場合に妊娠チェックがございまして、非常に、接種するまでに二カ月間抑制してほしい、また接種後一カ月は抑制していただきたい、こういうこともあるわけです。そういうところから本年度はとりあえず中学三年生、ということは妊娠の可能性がまあ少ないだろう——現実にあるそうでございますが、館山にけないだろう、そういうところから、無料ということは、風しん現実に行っているんだから有料にしていた方がいいということで、三〇%ぐらいはいただきたいということで、そういうことで五百円をちょうだいしている。こういうことでございます。

○学務体育課長（黒川邦保君） 市民運動場の用地の問題についてお答えいたします。

用地取得の計画的執行事務や国に対する補助金申請事務につきまして、御指摘のとおり不十分な点がございまして、反省して今後の参考にしたいと思っております。

次は、残る用地は国有地でございます。これにつきましては、関係機関と連絡調整を進めたいと思っております。

それから、今回の補正でお願いしたものは、補正としては計上してお願したわけでございますが、土工事が二月に終了しましたあと、うわもの建設工事として当初にあるものと含めて契約したいと思っております。

○一五番（辻田 実君） 予防接種の面について一つだけ疑念がございまして……

実際には風しんについては三十二万余の額だということでは二百二十一ですか、これで割りますと千幾らになる。実際には五百円ということですから半額になっている。半額になるわけですね、免除されているわけでしょう。学生からは、料金は、そうするとここでもって計算が合わないのは、インフルエンザの金の中からこの分が、半分の額がまかなわれているというわけにはなりません。

というのは、インフルエンザの予防接種の入金というのが一括になっておりまして、二百五十九万というのが入金になっているわけです。この支出の面も約二百五十万余になっているわけでございます。一般財源からは二万四千元という額なわけでございます。となつてまいりますと、この場合にはいま言われましたように半額以下という——本当は六百円近くになるんだけれども端数を切り上げて五百円という、医師会とのもつて計算されておるので云々ということでございますけれども、一般財源からの持ち出しが当然——こういうふうになってきますと六百円相当額が加算されるわけでございますから、ここでもって十何万という金が入ってこないと風しんそのものの原価計算というものができないような感じがするわけでございますから、この補正予算から見た場合に、そうなると収入と支出が同じになっちゃうわけです。二万四千元の差ですから、このところでそうすると風しんの中の利益が出た、それをここへ回した、こういうふうに解釈していいのかわかりか。

施行令によりまして、風しんについてはそういう健康保険その他のあれで対象にならないから実費でとられるということになる

のかもしれないけれども、しかしながらそういう法律によりまして行うというようなことでございますから、これはやはり国民健康保険会計なりそういうところで当然やるべき適用を受けてもいいものだと思いますけれども、これは全部医師会との関係、保険法そのものにかわってくると思いますけれども、そういう面では一般財源から二万四千円で三十二万何がしのものの補充ということは数字が合わないし、風しんのものに対してインフルエンザの収入というのに組み込まれたということでもいいのかどうか利益で補った、こういうふうに解釈していいのか、この点についてまず一点をお伺いしたいと思います。

国有地の問題については、この面については結構だと思っていますので、以上で長くなりますので……。

○保健課長（吉岡政雄君） お答えいたします。

この実費徴収金の内容でございますが、インフルエンザにつきましては四百五十円の延べ五千五百十人分、二百四十七万九千五百円でございます。風しんにつきましては五百円の二百二十一人十一万五百円でございます。歳入のときお話し申し上げましたとおり、この需用費の二百九万九千円というものは風しんの薬剤費は入っております。先ほど御説明申し上げました当初予算におきましてある程度流動的な予算の残がございますのでそのほうでまかなうことができた、こういうことでございまして、ここにある二百九万九千円というものは高校生に必要な三百三十九本分の薬品代でございます。これは単価が六千二百円でございまして、これが約二百九万九千円、これでございまして、決して予防接種の実費徴収のインフルエンザからみたものをそのほうに回した

というわけではございませんので……。実費徴収のインフルエンザの高校生は九三％ぐらいまで実費徴収したような計算になるわけでございます。

以上でございます。

○一四番（石井輝久君） 順序を追いまして、事項別明細書のうち歳入から御質問に入ります。

まず、一一ページ最下欄の一〇款二項二目一一節、ただいま辻田議員が質問しましたんで、ごく簡単にお伺いします。ただいま御説明ありましたけれども五百万円の減額、建設事業補助金の減額、この減額の理由がいまの説明でちょっと聞き漏らしたといいますが、多少耳が遠いんで聞き取れなかったのかもしれないけれども、はっきりした理由がわかりませんので、もう一遍減額の理由をお聞かせ願いたいと思います。

同時に、別の質問ですが、もし減額されなかった場合としたならばどんな事業を執行されたんでございましょうか、お聞かせを願いたいと思います。

それから、これに関連いたしまして、辻田議員も言いましたけれども、これに対応する三六ページ二目体育施設費中特定財源で国、県支出金五百万円減額してあります。これは当然でございましょう。予算措置としては、そこで細かくて恐縮でございますが一五節、一七節、この説明欄を見ますと鉾山市民運動場としてあります。それから一一ページの一一節の説明欄では市民運動場建設事業費補助金、これは歳入面と歳出面で予算計上というのか、説明欄のつくり方の技術上名称をかえるのが常識なんですか。ちょっとその点細かくて申しわけありませんがお聞かせを願いたいと

思います。

次に、一二ページの二項八目二節文化財遺跡調査補助金二十五万円の減額でございますが、説明にもないので、この減額の理由をお聞かせをいただきたいと思ひます。

合わせまして、文化財遺跡調査の内容をごく簡単に結構ですがお聞かせ願ひたいと思ひます。

それから、一四ページの最下欄六目総務費一節庁舎改修事業債六千万円、これに關連いたしました御質問を申し上げます。これに対応する歳出といたしまして一七ページの五目一三節委託料二百三十万円、一五節工事請負費七千七百七十万円、これは市の庁舎の冷暖房と先だつて御説明承りました。これはかつて行いましたあの市民センターの冷房施設の強行とは財政的な本質が全く違つておりまして、同一には論じられません。いづれにしても環境整備をするということでございます。それにこれは地方債で六千万円これはついておりますので、本質的に全く違ひますので同一にもちろん論じられません。しかしながら私をして選択せしめるならばこの選択はしないと申し添えたいと思ひます。市長はほとんど冷暖房が好きであるとかこのように推察しながら、特に御説明を承ることができればお考えをお聞かせ願ひたいと思ひます。それから、一七ページ一三節でございます。説明欄で市庁舎設計監理委託料、これはだれに設計監理を委託するのか。これは簡単に結構ですが御説明を願ひたいと存じます。

歳入面はこれで終ります。

それから、今度は二八ページの七款一項二目二二節、これは先ほど石井 正議員から質問がありましたので、その御説明でトミ

タストアーの倒産ということでございます。ですから深くはお伺いはしませんが、金額は十九万九千円、金額的には非常に小さい額でございます。しかしながら昨日も通告質問で申し上げますが、とにかくこの不況のありで市内の中小企業の倒産もひとりトミタストアーのみならずと思ひます。今後もちろん倒産があつては困るんですが、倒産する業者もなきにしもあらずだと思ひます。非常に深刻だろうと思ひますが、倒産防止にいろいろ行政指導とか必要であると思うのでございます。そこで今後の融資制度の運用を含めてこれらに關する中小企業対策、これは市長からお考えを承りたいと存じます。

次に、これは事務的な本場に簡単なものでございますが、三九ページ給与説明細でございますが、事務的な簡単なことでございます。これで一般職の総括、その中の備考欄で初任給の状況、区分——そこに四角く枠がございまして、給与改定後、改定前というのがあります。給与改定後のほうの高校卒、大学卒、それぞれ現員で何名ございましてか。高卒は何名、大学卒は何名、これを参考のためにお聞かせを願ひます。

それから、合わせまして別の質問でございますが、高卒の一般行政職、高卒の試験でその受験者中実際には大学卒の人であつて採用された人がいたら何人だったか、現員で何人おるかお聞かせを願ひたいと存じます。

〇学務体育課長(黒川邦保君) 歳入五百万円の減額措置の説明につきまして、市有地、民有地、国有地、それぞれ含んでおりますけれども、補助金申請事務を進めるに当たつて国有地は該當にならないということの県の助言指導がありましたので、そうさせて

いただきました。

そして、主な作業は、いまやっております土工事は旧校舍跡でございます。ですから土工事においても建設事業においても主に元校舍跡、すなわち国有地に適用する事業が多いということで、減額措置の県の指導を受けましてお願いするわけでございます。

次は、もしこれが減額されなかったらどうかというよりなお話でございますが、皆さんの御理解によりまして九月補正、今回の補正で補助とはかわらず歳出のほうを事業量及び用地確保につきまして御理解いただいておりますので、当初の目的をさらに充実した意味で施設整備、用地確保を図っている次第でございます。それから、歳入歳出面の市民運動場の正式名称についてでございます。まして、片方には「館山市」が付いていたり、付いていなかったり、本当は歳出のほうの「館山市民運動場」に統一すべきでございますけれども、このような名称の相違をいたして申しわけございません。

なお、正式施設名称につきましては、まだ決めてございません。以上でございます。

○社教文化課長（川名 備君） 一二ページ二項の県補助金八目教育費補助金の二節の文化財遺跡調査補助金の二十五万円の減でございますが、国分寺調査に係りましたものでございまして、四百万の当初の予定が百万円国の補助金の関係で減になりました。したがって二分の一相当額の五十万円が国からの減で、それに伴いますところの四分の一の県の補助金二十五万円の減、そういうことでございます。

○市長（半沢良一君） 倒産防止についての御質問でございますが

確かに大変経済が不況になってまいりまして、あつてはならないこととございますけれども倒産する企業が出てくるおそれがあるわけでございます。これは個々の企業の実態によって違うわけでございますので、市の商工観光課においてきめ細かい対策というのはなかなか講じにくいわけでございますが、商工会議所に対しましていろいろ補助金を出しまして経理指導をいたしております。たし、経理指導を通じて経営指導をいたしております。

また、小規模企業振興委員という制度がございます。それに対しまして市から補助金を出しているわけでございます。その振興委員という制度は現在委員が二十五名でございまして、市内の各地区にそれぞれ配置をいたし、それぞれの地区を相当しているわけでございます。その委員を通じて、その地区の方々が委員と接触を保って相談に乗っていただく、そういうふうな制度になっているわけでございます。そうした制度を通じて倒産のおそれがある企業を早期に指導し、あるいは発見をいたしまして、現在ございます融資制度を十分活用いたしたい。

現在の融資制度、預託制度も非常に利用者が少のうございまして、資金の枠が残っております。そういう意味で金融の面では十分御期待に沿えるものと思っております。

庁舎の冷暖房につきましては、答弁しなくてもいいようなニュアンスの御質問だったものですから答弁をいたしませんでしたが……。

庁舎の暖房も、庁舎をつくりましたときからすでに十七年を経過いたしました大変老朽化をいたしております。大修理が必要なのでございますが、暖房だけを修理いたしましたとしても約五千万近

いお金が要るわけでございます。それならばこの際夏の冷房も兼用の機械があるのでそれを入れたほうがいいんじゃないかと考えているわけでございます。

大体、私ふだん職員にしましては非常に勤務態度の厳しさを求めているわけでございまして、人件費を節減するという意味で定員の削減を図っているわけでございます。そのためには一人一人が精鋭でなければ困る、市の職員は少教精鋭主義であってほしいということを言っているわけです。

大体、職員に向かつては、君らは月給だと思ってもらっては困る、日給だと思ってくれ、場合によっては時間給、分給だと思つてそのつもりで勤務態勢を整えてもらいたいということを言っているわけです。いま直接の給与のほかにいろいろ共済費を含めまして一人当たりが三百二十四万一千円になっておりまして、大体勤務日数が二百七十日でございます。一日平均一人一万二千元というところでございます。八時間労働でございますので一時間が千五百円になります。もし夏場——現にそうでございますが、ことは室内で三十四度、三十五度という日が続きまして、三十四度三十五度という室温の中では実際に勤務ができないわけでございます。もしそういうことで一日二時間ロスを生じると、市民に対して一人が三千円ずつ損害を与えるわけでございます。いま現在市の庁舎の中に通常勤務しておりますのは三百六十人居るわけでございます。一人が三千円ずつということになると約百十万ずつの人件費でロスをきたすわけでございます。三十日ということになりますと三千三百万になるわけでございますので、まあもとものと暖房を直しましても——これはどうしても直さなければいけま

せんので五千万、人件費のロスを考えるならば三千万追加して八千万にいたしても冷房したほうがよろしかろうか、そういうのが私の考え方でございます。

〇財政課長（山田俊康君） 一三節の委託料、設計監理委託料の関係でございますが、この庁舎の建設設計監理にあたりました業者を現在考えております。

〇人事課長（太田博雄君） いま一般職のほうの大卒ということでございますが、いま資料を取り寄せておりますのでお待ち願いたいと思います。

〇一四番（石井輝久君） 最後の給与費関係は資料を取り寄せておられるそうですから、これは事務的なことですから、間に合わないければあとでお聞かせ願つても結構でございます。

簡単に再質問いたしますが、五百万の市民運動場、正式名称がまだ決まてないということで仮称でございましょうけれども、質問の二段目で事務的な細かいことで申しわけないけれどもということで質問したんでございますけれども、とにかく説明欄で、同じ内容であつて、片方の説明欄で「館山市民運動場」、片方の説明欄で「市民運動場」、これじゃ事務的に少しお粗末じゃなからうか、このように思います。役所のことですからそうじゃなくても重箱のすみをついたように間違いなく、間違ひなく、ステディといひますか、確実に、確実にとやられる日常の慣習の中で珍らしいと思うんです。ただいまもそこを来してということ御説明いただいたんでこれで打ち切りますが、それはひとり課長さんだけじゃなくて、十分に御注意を願いたいと思います。これは希望でございます。

それから、五百万の補助金をここで減額補正したということは、県の指導で当初見込んだものが国有地は該当しないからここで減額補正した、仕事の内容は変わらない、こういう御説明ですけれども、もうべき補助金がもらえない。そうすると、一般財源で市費を持ち出す、こういう予算計上の仕方は、私は非常に、言うならば間違いですよ。要するに当初予算で当然該当しないものをぶっ込んで予算計上した、こう言われてもやむを得ないと思うんです。わかっていることでしょう。県の指導があつて計上したものが五百万狂っちゃいました、減額します。そのかわり一般財源を持ち出します。これじゃちょっと市民に対して私は申しわけないと思いますよ。時間の関係でこれをもって打ち切ります。

それから、文化財の關係の二十五万円の減額補正、国分寺ということでございます。これは先ほど御説明ありましたんで、そうかなというようないた説明欄が見当たりませんからお聞きしただけで、これはよくわかりました。明快なる御答弁ありがとうございます。

それから、次の市の庁舎の冷暖房でございますが、ただいまの市長さんの非常に詳細な計数に基づく御説明で了承いたしました。質問の前段で申し上げましたが、市民センターのときは一般財源すら捻出することができずに、やむを得ず開発公社に委託して、要するに借入金でやった。そうして非常に大きな利息まで市民がかぶらなければならなかった。今回六千万地方債もついておりますので、本質的に財政面で違いますから、これはもちろん職員がいい環境で市民のために仕事に精励してくれること、これは一番いいことで、私は積極的に——反対する意思是毛頭ございませ

ん。

ただ、市長さん先ほど言われた中でちょっと気になるのは、少数精鋭主義でやっていただきたいんです。ただ精鋭に値する——ひとつ皆さんいろんな面で市民のために、いわゆるパブリックサービスといいますが、公僕として本當にやっていただきたいと思ひます。精鋭に値する内容をもった充実した行政にあたっていると思います。年末でございますので来年正月から一層御精励くださいらんとを要望して打ち切ります。

それから、ただいま財政課長さんから、設計監理の委託に關して前の、庁舎を設計監理を委託した——ということとは、十数年前この庁舎を設計委託した業者に委託するという意味にとれたんですが、それでよろしゅうございませうか、重ねて事務的にごく簡単に伺ひします。

と申しますのは、設計委託でございますが、三芳水道企業團の關係で、十数年前じゃなくてしばらく前に設計委託したところがあつた、それで必要が生じたから最近設計委託をする、業者が違ひんです。どういふ事情が決まっちゃつたというから、それ以上決まつたものを聞いてもしようがないからそれに関するいきさつは聞きませんでしたけれども、事情によつて変わることがある。庁舎の設計と一般設計、冷暖房の設計監督ちよつと違ひような気がする。庁舎を設計した人に庁舎と關係ない冷暖房の設計監理を委託していいものかどうかという気がしましたものですから、ごく簡単にお聞かせ願ひたい。意味わかりませうか。

それから、倒産に關するただいまの市長の答弁でございます。實際行政指導といひましても、日本の国全体を吹きまくっている

不況の風の中にあつて、館山市の行政でどうしろということとは非常にむづかしいと思います。ただ、いまの御答弁をいただきたいんで、私は打ち切りますが、十九万九千円、金額は少ないですが、トミタストアの倒産に融資してなければ十九万九千円持ち出さなくても済んだわけです。まあしかしそれは言つても融資制度はむづかしいでございます。銀行でも貸倒準備金なんか準備して、貸倒れがあつてもしょうがないという態勢をとつてゐるので、十九万九千円持ち出ただけで済んでお互い結構だったという考え方も成り立ちますので打ち切りますが、一層の融資制度——一方で温情を持ちながら一方で——ちよつと表現がむづかしいでございますが、ひとつ市内の中小業者のために温情を持ちながら、うまい融資運営をやつていただきたい。非常にむづかしい注文でございますが、よろしくお願いしたいと思ひます。

これで終りですけれども、まだ届きませんか。届いておりましたら……。ですから、庁舎の設計監理の關係と、届いておりましたら給与費明細のただ今の質問御答弁いただきたいと思ひます。

○人事課長(太田博雄君) 急いで資料を取り寄せましたので、御質問の御趣旨に合つていなかったら申しわけないわけでございますが……。

一般会計のほうで申し上げますと、総數五百一名の中で大学卒が四十名、短大が七十、高卒が二百三十、その他中卒が百六十一名でございます。

○財政課長(山田俊康君) この庁舎を設計いたしました会社は、現在の暖房機器、あるいは配管、ボイラー等の設計、監督等を実施しております。そんな關係から最も適切ではないかと現在考え

ております。

○一四番(石井輝久君) 庁舎の設計監理十分了解しました。

以上をもつて質問を終ります。

○一六番(安西益男君) 二点ほど簡單ですがお聞きしたいと思ひます。

二五ページ一節修繕料百八十五万九千円。清掃車の耐用年數も大變過ぎて修理しなきゃいけないという説明があつたと思ひますが、これを修繕しまして何年ぐらい今後使用できるかということ、見通しについてお聞かせいただきたい。

それと、現在ひと組でやつてゐるわけですけれども、なかなかひと組では市街地の要望にも応えられないというよりな実情だといふふうに見えます。と同時に機種能力といふますか、機械の使えるところと使えないところ、そういう個所がけっこうあると思ひます。そういった点、側溝の広いところ、そういったところはそのままになつてゐるわけですが、そういった点はどんなふうに対処されていけるのか。そういった点の考え等もお聞かせいただきたいわけでございます。

いずれにしても、現在の一台の範圍では、なかなか市民の要望に応えきれないというのが現状だと思ひますので、現状のままの状態で当分進んでいけるのか。あるいはまた何台かふやすなりそういう方法をとられるのか。あるいはまた車の入らないところは人夫のような人にやらせるとかということがあるのか。そのままでいくのかどうか。心配なものですから、その点をお聞かせいただきたい。

それから、二九ページ一五節の工事請負費でございますが、補

正としては大変大型のような二千二百万ということで、これは境川の河川を中心とした工事だと思いますが、当初予算の時点で計画はできなかったのかというふうなことなんですけれども、その点お伺いいたします。

○衛生課長(石井 謀君) 最初の一一節の修繕料についてお答え申し上げます。

これは正木処理場の中に現在総体で二十一台の自動車があるわけでございます。この自動車二十一台分の修繕料の不足分でございます。主に関御説明申し上げましたように側溝清掃車とかあるいはブル、そういうような大型車の耐用年数の経過で修繕料がかさむわけでございます。これは毎年入れ替えをいたしておりますので何年ぐらいいつかということについては——耐用年数は特殊車の場合に三年でございますが、そういうことで毎年入れ替えを行っております。

その次に、側溝清掃車の関係でございますが、これはジェットフラッシャーというのとモータースイーパー、それから二トンダンプ、三台合わせましてひと組でもって実施しておるわけでございます。購入いたしましたのが四十八年でございます、相当耐用年数も経過しております。三台ひと組でもってリースで行ったわけでございますが、どうしても修繕費もかさんでまいりますので、一、二年のうちには新しく買い替えなくちゃならないというよりな段階でございます。そういうよりな段階でございます。現在これをもうひと組ふやすということは非常に結構だろうと思えますが、これを新しく買い替えて十二分な活用をさせたいという考え方でおります。

○建設課長(飯田治男君) 二九ページの河川費の工事請負費二千二百万の補正でございますが、年度途中に臨時河川等整備債というものが出まして、それに申請しましたところ採択されましたので、それで今回補正をお願いしたわけでございます。

○一六番(安西益男君) 特に清掃車のことについてもう一遍お聞かせいただきたいんですけども、ふやすということは確かに大変だと思いますが、現在のままの状態——一台で十二分に活用ということは非常にむずかしい。これはわかりますけれども、そういう点で、昨日もやはり質問等でも、広範囲な清掃の方法ということを十分考えていかなければ、個々のこういった地域、地域をとっても満足のいくようなそういう結果は得られないということとは十分御承知かと思っておりますので、そういう点の、関連したそういう面もありますので、どうかひとつ市内全般がきれいになるような方向へいろいろとまた進めていただきたい。このように思いまして以上で終わります。

○一五番(辻田 実君) 一つだけ追加して質問いたしたいと思えます。

先ほど一四番議員が質問しましたけれども、一七ページの委託料、市庁舎改修工事設計並びに工事請負でございます。

いろんな選択の問題で、細かく市の職員の能率等について御説明をいただきましたので、この点については了解をいたします。

そこで、私は一つお伺いしたいのは、館山市の小、中学校並びに幼稚園におきますところの暖房装置はどうなっておるのか、冷房施設はどうか。かつて防音校舎等、その他学校建築に際しまして暖房のこと等問題になりましたけれども、従来市当局において

は、館山市は温暖の地であるのでこうした必要性については他の地域とは違う特殊性を持っているということでもって終始されていることについては、当局者としてどのように考えておるのか。いまもってそれは変わらないのか。特に小学校、幼稚園、こういうところだからといって天候は容赦しません。ここの選択の問題をどのように考えるのかということをお伺いしたいわけでございます。

〇庶務施設課長（汐崎政光君）　ただいま辻田議員さんから御質問ございましたけれども、ただいまのところ市の教育委員会としましては、当時市の方針として打ち出されました冷暖房——普通教室においては小、中の場合実施しない、こういった線で進めております。

〇一五番（辻田　実君）　二、三年前であつたと思ひますけれども北条小学校から陳情がございまして、低学年が見るに忍びない状態で云々というような陳情がありまして、私も見に行きました。ほかの議員も大分行ったんですが、非常に雨の日だとか曇つていたり日は寒い、そして先生や生徒に聞いてみますと、こういうものを用意してきているんですよというて、足を包むものとか、その物を全部生徒に持って来なさいというような特殊防寒具、こういうものをやっておる。あそこにおきますところのストープ、あるいは燃料の問題、若干教育委員会からも出ておるようでございますけれども、自費負担等であつておるところもある、こういう状況であるわけでございます。こうした面、特に小学校一年生、二年生は幼児ですから、このことをどのように考えたのか。選択の問題でもってどう対応したのか。

確かに冷暖房があつたほうが能率が上がります。しかしながら市の公共施設——公民館、そういうところは使わないときがあるというけれども、それじゃ幼稚園とか、そういう通常のに使っている場所、これとの問題になってきますと、私は非常に市民感情、市民と協力していかなければならないという立場において、何らかのコメントをしなければならぬという状況が出てくるのではないかと。

率直に言ひまして、市の職組等については施設をよくしてもらいたい、それから私達も労働組合云々ということでもって多少かわつておりますものですが、職場で冷暖房をお願いしたいということをやっております。私の所屬しております労働組合の中でもほとんど冷暖房のあるところとはございません。あつたほうがいいんですけれども現実問題として達成されてない。

たとえば、電話局等はございます。しかしながらあれは人間のための冷暖房じゃなくて機械のための冷暖房でございますから、今日肺炎が蔓延して非常な問題になっておる。普通人間の体を冷やすには夏なんか二十度前後がいいということなんです、そういう点あそこは機械関係でもって機械の狂いが出ないために十四度から十六度ぐらいにするということですから、きめんに中の従業員がやられる、こういうような問題で、あそこは機械のために入っているということとです。

県は合同庁舎等については冷暖房入っていますから、といって県がやっているからというわけには市の場合にはないかと思ひますけれども、そうした一般の館山市の職場の中でもって、特に中小企業というところの職場でもって果たして冷暖房が職場の

中にやられておるのか。さらには、学校初め公共施設、特に低学年のところについては、いま課長が言われたとおりであります。そういう面と比較してこの選択というものがどう対処されたのか。当然こういう空気は出てくるわけです。

私どもとしては、お前そう言うけれども、市長さんが言ったように能率が上がるということになればかけがえないじゃないかということになる、反対とは言い切れませんけれども、しかしそれに對する筋道というものを立てておかないと、子供はどうだと言われた場合に、小学校一年生、二年生の場合にどうだ、北条小学校はどうだと言われた場合に、これはいまままで問題になつてゐるわけです。そこらへんの問題についてどのようにお考えになつたのか。今後そういう問題についてどう対処していいのか。今度は学校のほうも逐次やっていきますということでもつてわれわれ答えていいのかどうか。従来どおり学校は寒くてもいいのだと、多少寒くても房州の寒さというのはそう教育上影響はないと市の職員だけ影響が出るということには筋道が通らないんじゃないか。この点明確にしてみたいと思います。

○市長（半沢良一君） 快適な職場をつくるということは大変大事なことだと思ひまして、そうでない、冷暖房のない企業もたくさんございますけれども、悪いほうに見習うことはないんで、いいほうに見習ったほうがいいんじゃないかと考えてしたわけです。それが職員に対する励みにもなるんじゃないかと思ひます。

学校につきましても、早急に検討しなければいけない問題でございますが、あまり学校で冷暖房されているところはないようでございます。これが多くなつてまいりましたら、そのときに検討

したいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討論に入ります。討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第七十三号昭和五十二年度館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

議案第七十三号 昭和五十二年度館山市水道事業特別会計補正

予算（第二号）

質 疑 応 答

〇議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 昨日通告質問でお尋ねした加入者分担金の問題について、ちょっと時間がなくてよく聞くことができなかったわけですが、四八ページの収入の面で加入者分担金として一千百二十五千円が計上されているわけです。加入者分担金はきうも申し上げましたように本管までの分担金ということで、本管から給水管を取り出すというようなことは、給水管ですから加入者がその分は負担するということで、本管から給水管というのは直接取っていると思うんです。

最近では地域的な関係で五十ミリ給水管を本管と、これは給水管ですが、五十ミリ給水管から何本かを取り出すということになりますと、五十ミリ給水管は給水管であっても本管にかわる、そういうものだと思うんです。もし五十ミリ給水管が長いと加入者の負担がかなり重くなるわけです。当然経費の分担ということになりますとかなり不正になるわけです。本管から直接給水するのがたてまえなのに、五十ミリの給水管から取り出しても分担金が重くなるという不公平があるということ、かなり市民の中では問題になっているわけです。こういう場合には五十ミリ給水管使っても、五十ミリ給水管は企業側でもって負担するのが当然だと思っうんですが、その点もう一回、明快に御答弁願いたいとおもいます。

〇水道課長（大嶋重義君） この点でございますけれども、ちょっと渡辺議員さん混同されている面があると思うんですが、水道管

の場合管を分けまして、配水管と給水管に分かれます。配水管というのは浄水場からの輸送管でありまして、一般に本管といっておりますけれども、その本管から分岐して各家庭とか事業所へもっていくこのものの器具、装具類を給水装置というわけです。ですから、この場合給水管については申し込み者、あるいは使用者の負担になるわけです。配水管については水道事業者の負担、こういうふうになっております。

この点については、きのうも話しましたように、私も——きょうここにも出ておりますけれども、配水管として五十ミリのものは事業者負担として今回もこの中に出ております。私どもはそういう考え方で、従来まではきのうも話しましたように七十五ミリまでを配水管、それからそれ未満のものについては給水管ということで入る事業所の負担ということの扱いでやっておりましたけれども、この拡張工事をやるにつきまして実際に配水状況を見ますとそういうところがありますので、五十ミリまでのものは配水管として扱っております。

ただ、きのうも話しましたように、従来の中央水道管内にはそういう当時の状況によつては非常に水事情が悪い、しかも配水関係も市の場合のようにいきませんので、非常に苦しい給水管を引いているところがございます。そういうところがあちこちに散見されるわけでございますけれども、私どもは今回の拡張事業におきましては同じような考え方で、なるべく入る方の負担を軽くするようにということでやっておるわけでございます。ただ、これがどこまでを五十ミリにみるか、みないかということは距離とか周囲の状況、加入者の数、将来、その地域の加入者が見込みがあ

るかどうか、こういうようなものを総合的に判断して、じゃあこの地域は五十ミリの配水管を引くしかない、こういう判断をくだすわけでございます。

そういうようなことでございますので、従来とは私ども考え方を變えております。ただ、これがきのうも話しましたように起債の關係につきましては七十五ミリ以上でないという対象になりません。それから、さらに消火栓につきましてはやはり七十五ミリ以上でないといけません。こうなっておりますので、いままではただ一般的に五十ミリ未満のものは事業者は負担しないで、原則として給水管扱いにしていた、こういうようなことでございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの説明でよくわかりました。これから配管していく場合でできるだけ——五十ミリ管というところと七十五ミリとは大分違いますから、七十五ミリ本管を中心にしていく、やむを得ない場合には五十ミリを使うということによっていただきたいと思います。

以上で終わります。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

〇議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

日 程 の 追 加

〇議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいま市長から議案第七十四号人権擁護委員候補者の推薦について及び議案第七十五号館山市監査委員の選任についての件が提出されました。

この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって議案第七十四号及び議案第七十五号の各案件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議 案 の 配 付

〇議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 議案第七十四号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第七十四号 人権擁護委員候補者の推薦について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） この十二月二十四日を以ちまして任期満了となりました谷野律子さんの後任といたしまして、高橋健樹氏が最適任と信じますので、人権擁護委員法第六条第三項の規定によりまして人権擁護委員候補者として推薦申し上げたいと思いますので、御賛成いただきたいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論を省略して採決したいと思ひますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 議案第七十五号館山市監査委員の選任についてを議題といたします。

（一三番議員林 豊君退場）

○議長（吉田勇治郎君） 議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第七十五号 館山市監査委員の選任について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 説明を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 監査委員でございました田中祿郎議員から十二月二十日付けをもちまして、病氣の理由をもちまして、辞任の申し出がございました。万やむを得ないものと考えまして、これを了承することになりましたので、その後任といたしまして林 豊議員が最も適任と信じますので、選任したいと存じま

す。何とぞ皆様方満場の御賛意をいただきたいと存じます。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終了しました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論を省略して採決いたしましたと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

監査委員選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって監査委員選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

（二三番議員林 豊君入場）

閉会 午後二時四十二分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よってこれにて第四回市議会定例会を閉会いた

します。

○本日の会議に付した事件

一、議案第七十号乃至議案第七十三号

一、発言の取り消し

一、日程追加・議案第七十四号、議案第七十五号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 吉 田 勇 治 郎

館山市議會議員 鈴 木 正 義

館山市議會議員 藤 田 益 治

